第3章　住宅施策の方向性

3-1 基本理念

本市は、山口県の瀬戸内側中央部に位置し、中国山地に源を発する一級河川佐波川が形成した県下最大の平野があります。また、主要幹線が集中する交通の要衝であり、恵まれた立地環境と高い交通利便性を有することから、市全域へのアクセスが良く、「まち」としての一体感があり、便利で効率的なまちづくりを進めやすい環境にあります。

こうした中、全国的な少子化高齢化と人口減少の進行をはじめ、気候変動により頻発・激甚化する自然災害、急速な技術革新やコロナ禍を契機とした「新たな生活様式」など、住生活を取り巻く環境は大きく変化しています。

そこで、本計画では、第5次防府市総合計画「輝き！ほうふプラン」の基本目標に掲げる『「明るく豊かで健やかな防府」の実現』を踏まえて、市民の豊かな住まいの実現を目指し、住む人誰もが生涯にわたって安全で安心に快適な暮らしを実感できるよう、基本理念を次のように定めます。

≪基本理念≫

市民誰もが安全で安心に心地よく暮せる住まいづくり

3-2 基本目標

本計画の基本理念と第5次防府市総合計画に掲げる基本目標、「明るく豊かで健やかな防府」の実現に向け、計画期間中（令和4（2022）年度～令和13（2031）年度）に目指す、5つの基本目標と目標指標を定めます。

基本目標 1 安全・安心な住まいの形成

近年頻発・激甚化する災害から市民の生活や命を守るため、災害に強い住宅の整備を促進するとともに、災害発生リスクを踏まえた居住誘導を図り、居住者の安全性を確保するための防災・減災対策等を進めます。

また、周辺住民が安全・安心に暮らすために、空き家の増加抑制及び空き家の適正な管理、除却につながるよう、空き家問題に対する総合的な支援と対策を講じます。

【目標指標】

指標	現状値	目標値
住宅の耐震化率[注1]	79% （平成 25（2013）年統計）	100%

注1：住宅・土地統計調査より

基本目標 2 快適で環境にやさしい住生活の実現

快適で暮らしやすい住生活を実現し、質の高い住宅ストックへの更新を促し、インフラなど生活に関わる基盤の整備や適切な維持管理により、居住環境の保全・利便性を向上させ、快適で暮らしやすい住環境を形成します。

さらに、地球温暖化等の気候変動問題による住環境への影響を踏まえ、脱炭素社会の実現に向けた、温室効果ガス（二酸化炭素等）の排出量削減に資する取組を推進します。

【目標指標】

指標	現状値	目標値
再生可能エネルギー発電出力[注2] （太陽光発電システム 10kw 未満）	22,798kw （令和 2（2020）年度）	46,000kw 以上

注 2：資源エネルギー庁HPの設備導入状況の公表「エリア別の認定及び導入量」より（主に住宅用で設置する 10kw 未満のもの）

基本目標 3　多様な世帯が支え合い自立して暮らせる住生活の実現

若者や子育て世帯、高齢者世帯や障害のある人など、それぞれが自立しながらも、互いに支え合える住まいづくりを目指します。

また、誰もが安全で安心に暮らせるよう、住宅の確保・供給をはじめ、周辺の居住環境の整備を推進し、質の高い住環境の形成を図ります。

【目標指標】

指標	現状値	目標値
住宅のバリアフリー化率[注3]	49% （平成 30（2018）年統計）	75%以上

注 3：住宅・土地統計調査より

基本目標 4　適正な維持管理に基づく良質な公営住宅の供給

老朽化が進む公営住宅について、「防府市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、適正な維持管理を行いながら、住宅の修繕や長寿命化のための改善を実施します。加えて、将来的な需要見通しを踏まえた建替えや団地の集約化を行い、良質な公営住宅の供給に努めます。

また、住宅の確保に配慮を要する世帯に対して、円滑に住宅が供給できるよう庁内の関係部局が相互に連携するとともに県との連携強化に努め、入居を希望する世帯の実情に応じた対策を講じます。

【目標指標】

指標	現状値	目標値
公営住宅の建替戸数	19 戸 （平成 24（2012）～ 令和 3（2021）年度）	100 戸以上
公営住宅の共用スペース照明の LED 化率	73% （令和 2（2020）年度）	100%

基本目標 5　新たな日常やDXの進展に対応した住まいづくり

住生活における非接触型の環境を整え、便利で快適に住み続けることができるよう、デジタル技術を活用し、暮らしの利便性を向上させます。

また、新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした、生活様式や働き方の変化によって増えてきた、テレワークや地方移住・二地域居住などの、多様な暮らし方に対応できる環境を整えます。

【目標指標】

指標	現状値	目標値
マイナンバーカード交付率	46% （令和 3（2021）年度）	100%